

第8回全国鳥獣被害対策サミット
効果的な鳥獣被害対策は連携と共有から
～ 持続可能な農村の将来を考える ～

体験と共有から始った
集落ぐるみの獣害対策

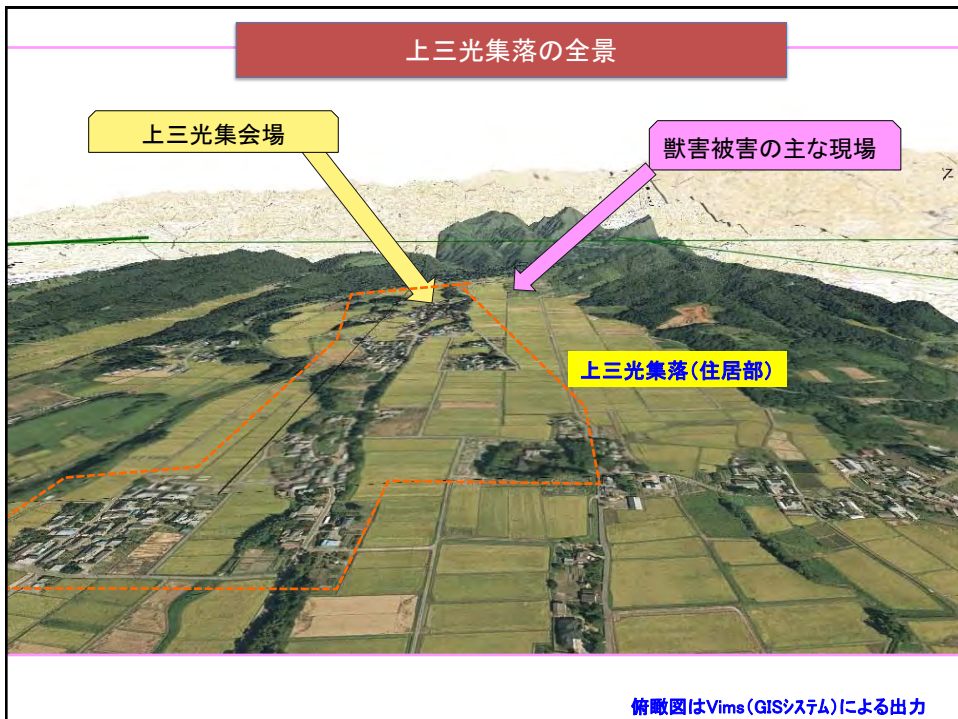
～ 集落資源の活用と環境の改善で集落を再生 ～

上三光清流の会 代表 小柳 繁

主催：株式会社ブランドウ・ジャパン



鳥獣被害と集落の現状



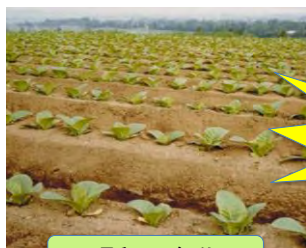
周辺に広がる耕作放棄地



集落環境の悪化と野生鳥獣

集落環境の変化

葉タバコ栽培の減少による遊休農地の増加



昭和40年代

耕作放棄地



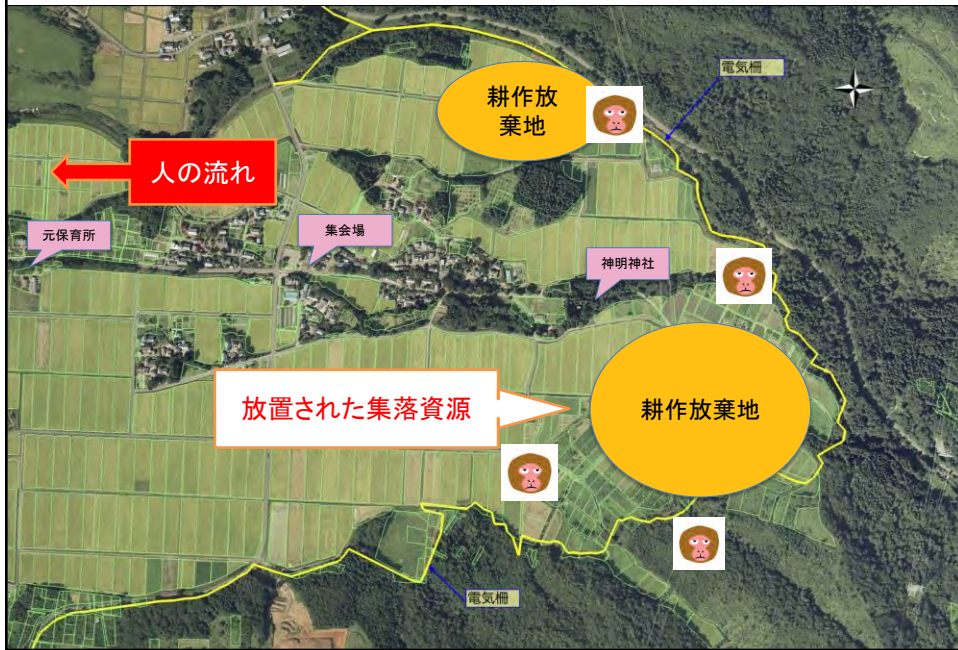
平成10年代

- 平成13年頃に、サルの被害が表面化
- 平成17年、川東地区猿害対策協議会が設立
- 平成23年、川東地区集落横断電気柵を設置
- ※電気柵の設置だけでは効果が不十分！
- 平成25年頃に新発田市でイノシシが発見



イノシシの掘り起こし

サルの出没と集落環境(GISデータ)



集落環境が悪化した背景

- 非農家の増加
⇒ 農地に対する関心が低下
- 自作農の減少
⇒ 農地需要の減少
- 山林所有者
⇒ 経済性がない里山の放置

薄れていく集落資源への「関心」

「割れ窓理論」から見る集落環境

割れた窓の放置 → 他の窓が割られやすくなる

→ 環境悪化につながる (例) 捨てられたゴミ、汚れた公衆トイレ

森林や農地などの放置 → 里山・農地の荒廃

→ 集落環境の悪化 → 獣害問題

「無関心」が生む負の連鎖

背景にある集落の課題



事件は会議室で
起きているわけじゃない！

対策の現場は
集落にある！

獣害対策に求められる「集落の力」

個体群管理

野生動物の数を
管理して被害を減らす
直接的防除

動物

行政、猟友会、関係団体

被害防除

電気柵などで農作物を
守って被害を減らす
直接的防除

人

地権者、集落

・電気柵の維持管理、追い払い

生息地管理

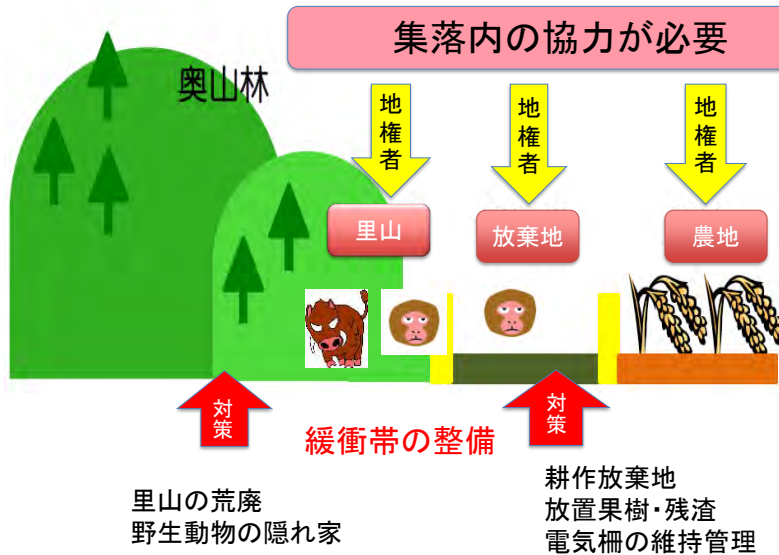
集落周辺の森林の伐採
による間接的防除

環境

地権者、集落

・森林の伐採や里山整備
・耕作放棄地の解消、誘引物除去

獣害対策は集落の現状が反映される



獣害対策が進まない背景

人

- 昼間不在が多く、関心が薄い
- 自分の利益を優先
- 被害度が異なる

環境

- 自己管理できない山林や農地
- 地域資源に対する無関心

難しい合意形成
地域の事情が複雑に絡まる

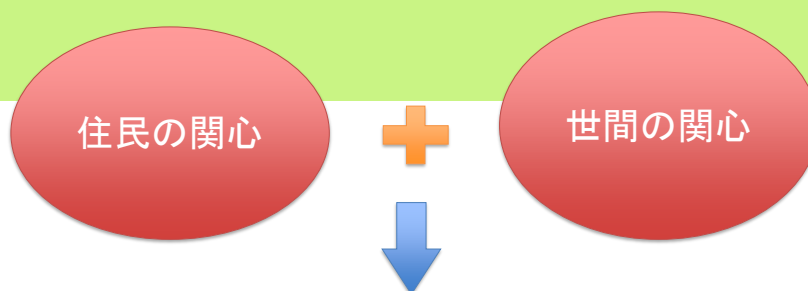
獣害対策のきっかけ
平成24年上三光清流の会の設立

集落がこのままだと、10年後はどうなる？

活動のテーマ
「持続可能な農村」

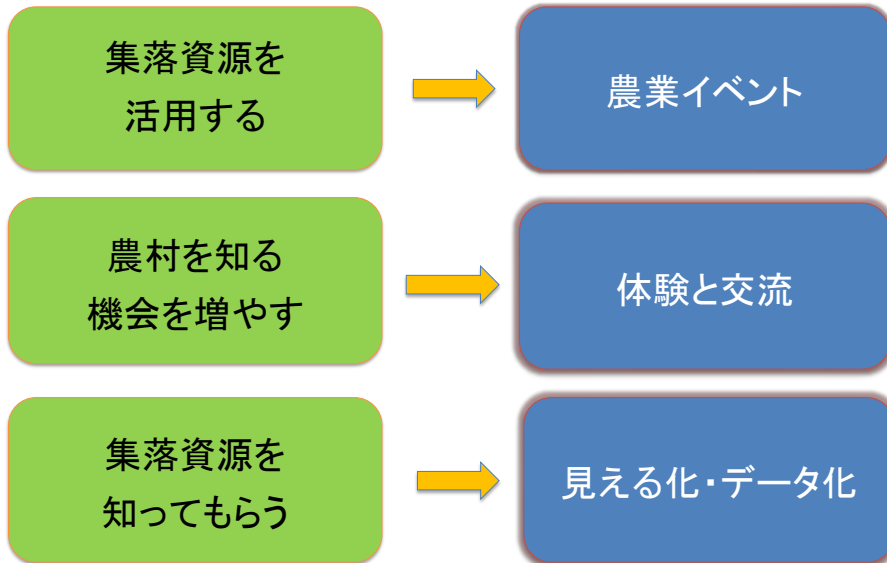
集落に関心をもってもらおう！

- 住民が関心を持つ
- 世間が価値を感じる

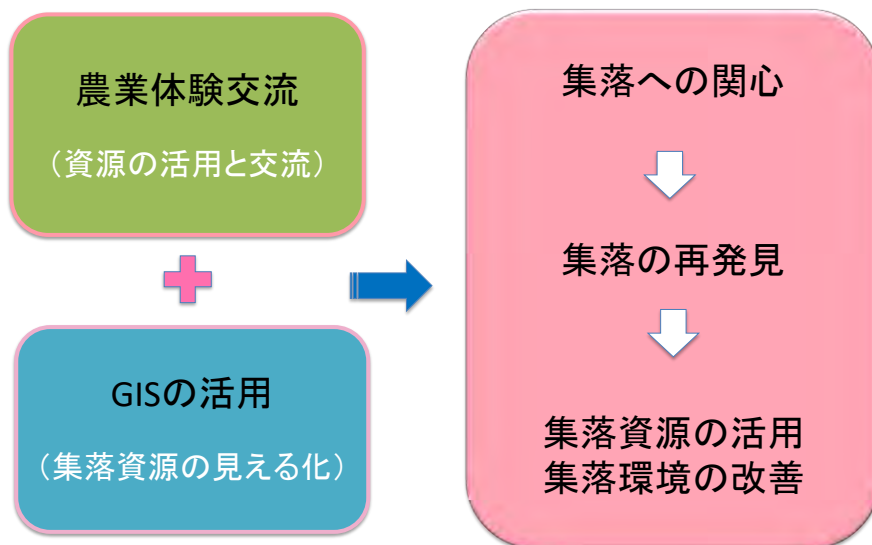


集落再生のための力

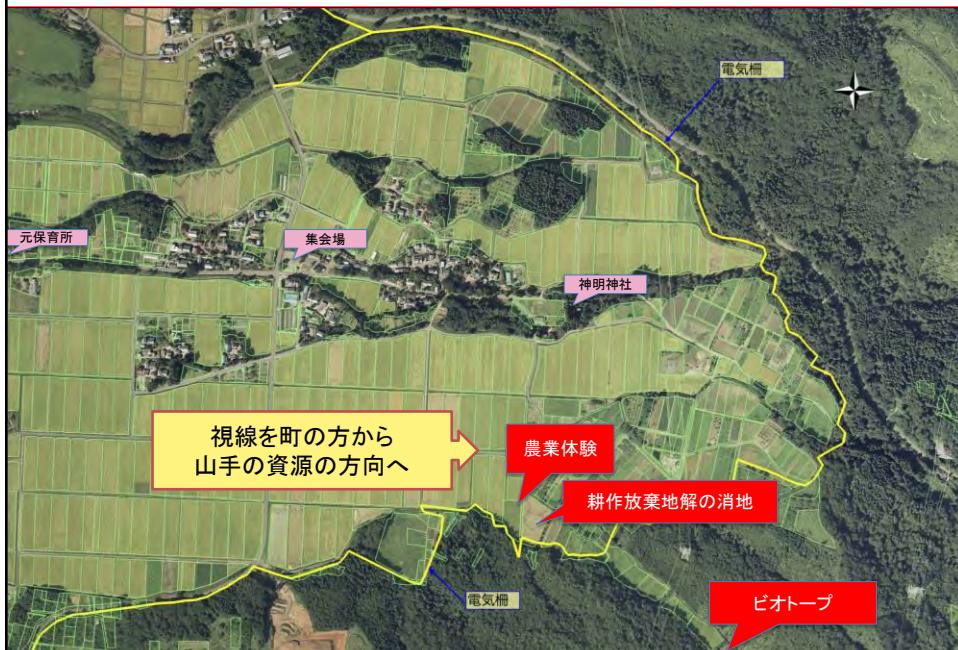
関心を持たせる取り組み



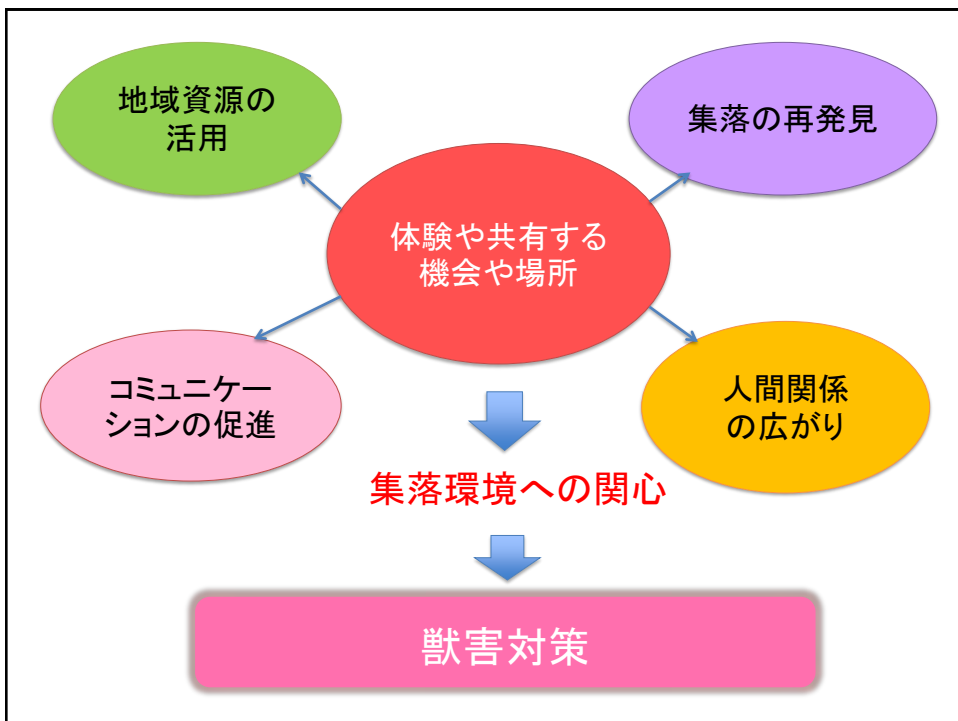
キーワードは、「体験する」「共有する」



集落資源に関心を向けよう！







住民が集落環境に関心を持った！

住民参加で 集落環境を診断する

～ 獣の視点から地域を見てみよう ～
2016.11.6

住民参加で集落環境を調査

診断のポイント

- (1) どれだけ多くの住民が参加するか
- (2) 住民自らが、現状を確認する
- (3) 住民自らが、課題と対策を見つける



ワークショップによる合意形成

(1) 集落環境を改善しよう！

荒廃した里山や耕作放棄地など集落環境を整備

(2) 餌となる誘引物を撤去しよう！

残さや果樹など誘引物などの処置と対策

(3) 電気柵の不備の解消しよう！

電気柵の正しい張り方と有効な管理体制に構築

(4) イノシシ対策をたてよう！

増加するイノシシの脅威に対する対策

自治会の活動として取組みを強化

人

被害防除

電気柵などで農作物を
守って被害を減らす
直接的防除

新たな取組み

- 自治会で獣害対策費を予算化
- 電気柵の計画的な維持管理体制
⇒ チーム編成で定期的な管理



10人単位5チームで管理



地権者の同意で集落資源の整備・活用

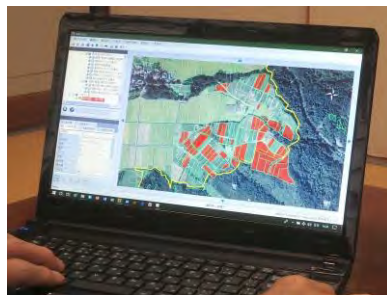
環境

生息地管理

集落周辺の森林の伐採
による間接的防除

取組みの強化

- 里山整備や耕作放棄地の解消
計画的な環境整備と土地活用
- 放置された果樹の伐採
資源活用として柿酢作りの体験



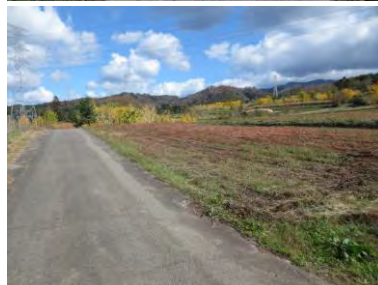
GISで土地の共同管理を行っている



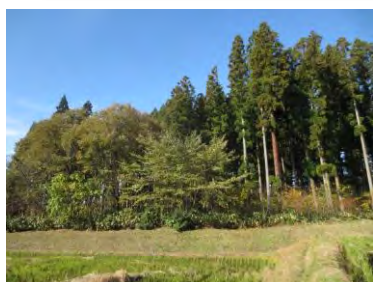
里山の整備と耕作放棄地の解消



耕作放棄地を農地に復旧



見通しの良い集落環境づくり



自己管理できない農地の共同管理

土地の有効活用を図り、約4haの畑で蕎麦を栽培

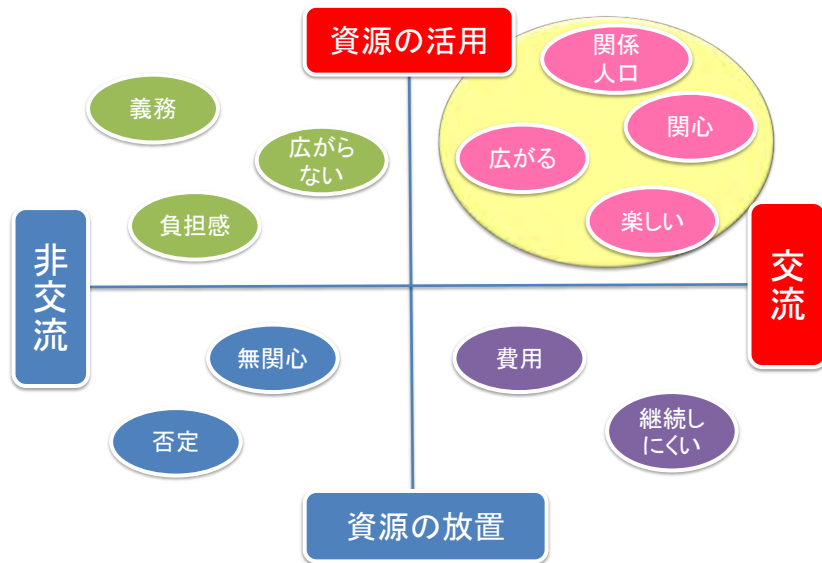
2月の第1日曜日には「蕎麦を食べる会」を開催



集落資源の活用と環境改善で効果が発揮！



集落ぐるみの活動の方向性



**集落再生は人の心を豊かに
獣害に強いムラをつくる**

耕作放棄地がビオトープに
集落の水辺が憩いのひろ場に
荒れた畑が蕎麦畑になった
住民の関心が高まれば
集落環境が改善し
獣害に強い集落になる



集落の「強み」は、地域資源があること
それゆえに、資源の放棄は「弱み」となる

映画「7人の侍」と獣害対策

秋になるといつも山賊がムラにやってくる
村人は、諦めるか、戦うか、悩んだ末に
自らが立ち上がる決心をする

集落で取り組むということに関しては
獣害対策に共通したものがある

ご清聴ありがとうございました



上三光清流の会 代表 小柳 繁